

クロアチアでのナニー体験記

ナニーって仕事をご存知？

ナニーをしている。子どもの家庭内保育・教育を行う仕事であり、日本語で言えば「乳母」のイメージが近いだろうか。私は英国のナニースクールを出て保育関係の仕事に携わってきたが、今は日本生まれのロシア人の男児のナニーを彼が生後 50 日の時からしている。現在彼は 7 歳、日本でいう小学校 1 年生。彼らが 3 年前に東京からクロアチアに越してからは、年に数カ月ナニーとしてクロアチアの彼らの家に滞在している。

滞在中の生活は英語とロシア語と日本語が基本で、それに土地の言葉のクロアチア語とイタリア語が入り混じっている。身振り手振りと表情で地元の人と意思疎通をしたり、友人になったりしている。子どもを保育園や小学校に送迎し、学校の行事に参加し、一緒に毎日の宿題に格闘している。子どもにとって私は赤ちゃんの時からナニーであり、日本語の先生であり、剣道の師匠であり、友人なのだと思う。

クロアチアでのナニー

私がナニーをしている場所は、クロアチア共和国（以降クロアチアという）北西の、ウマグという人口約 1 万人の小さな港町。アドリア海に面したイストラ半島の北側で、車で 5 分走ればスロヴェニア国境、そのまま 15 分行けばイタリアのトリエステに着く場所。町の言葉はクロアチア語とイタリア語で、道路標識にもクロアチア語とイタリア語が表示されている。アドリア海を求め 3 月~10 月はドイツやスイス等から来る観光客で賑わう。

さて、ナニーとしての生活は警察署に届けを出してスタートする。滞在報告の様なものだ。仕事の都合で父親は留守なので、母親のイリーナさんと 7 歳のマキシムそして私の 3 人暮らしである。私には日本語を教える役割もあるので、私とマキシムは日本語で会話をする。私とイリーナさんは英語で会話し、イリーナさんとマキシムはロシア語で会話をする。常に 3 ヶ国語である。イリーナさんは日本語、私はロシア語をなんとなくニュアンスで理解し合っているが、3 人の会話をすべて理解できるのはマキシム一人である。

ナニー職の実際

朝は 6 時に子どもを起こす所から仕事が始まる。着替え、洗顔歯磨きをして、フルーツと牛乳の簡単な朝ごはん（きちんとした朝食は学校で出るので）、6 時 45 分学校に出発。海岸沿いの歩道をマキシムと二人で、徒歩で約 30 分かけて登校。もちろん通学路で出会うすべての犬や変わった草木や、いつも同じ場所につながれたボートの観察と挨拶は欠かせない。子どもなりの朝の習慣に時間がかかるため大人の足で 20 分弱の通

学路も、時には倍もかける時間の余裕が必要だ。

小学校はイタリア語の学校。この町では、公教育の学校がクロアチア語学校とイタリア語の学校から選択できる。朝 7 時半に登校。そして午後は曜日によって 2 時か 4 時頃に迎えに行く。時には同級生とその保護者と一緒に公園で遊んでから帰宅。その後は、週 3 回自転車で片道 30 分かけてテニス教室へ送迎をする。帰宅後イリーナさんの作った夕食を皆で食べて、マキシムをお風呂に入れて、21 時頃に眠るまでが私の仕事である。子どもが学校に行っている間はイリーナさんと子どもの事を話し合ったり一緒に買い物や料理をしたり、自分の洗濯など所用をする。この時に自由な時間も時々作れるが、小さな町には電車も路線バスも無いので、徒歩と自転車ではたいして移動もできない。一人で町を散策といっても、カフェに入ったり、手芸屋でクロアチア語しか話さない店のおばあさんに先日買った刺繍キットの進捗状況を報告がてら遊びに行ったりする位である。



(通学路、船が漁から戻ってきた)



(イタリア小学校)

マキシムのイタリア小学校で、1 年生の図画工作の時間に折り紙を教えた。生徒 17 名ほどに担任以外にも興味を持った教員が 2 名参加した。私にとって子どもの前で話を

する貴重な楽しい時間であった。町にはほとんどアジア人もいないため、子どもたちは折り紙と日本人とのふれあい体験を楽しんだ様子であった。これ以降、教員や子どもと顔見知りになり、子どもや孫が折り紙を習ったよと町で声をかけられることが増えたのはありがたかった。



(折り紙の授業、中央が筆者)

二人だけの時もある

私とマキシムを家に残して、今回の滞在期間 2 カ月のうち 2 週間イリーナさんは旅に出かけた。これまでも何度かマキシムと二人暮らしを経験してきた。こうした状況もナニーの仕事ならではの事だろう。マキシムと二人で家庭内は日本語だけの生活。学校の後や週末は二人で剣道の練習をしたり、箸の持ち方や漢字の練習をしたりして、いつも以上に日本風に過ごした。日本好きなマキシムは剣道の練習も楽しんでいた。

その他にも、スイスに留学中しているマキシムの姉の 20 歳の誕生日を祝うためにイリーナさんとマキシムと私の 3 人でジュネーブに行き、1 週間滞在した。子どもの側で旅に同行することもまた仕事である。これまでもスイスアルプスやヴェネチアやオーストリアと一緒に出かけ滞在した。自分で観光したり、名物を食べたり美術館に行く時間はほとんどない。私自身は観光に来ているのではなくナニーの仕事としてきているのだから当たり前である。旅先では大変な事もあるが、子どもを通して目にする風景や国による子育て週間の違いを肌で感じる貴重な時間でもある。

ナニーの仕事冥利

ナニーの仕事は日々クライアント（保護者）の考えに沿って保育・教育することである。それと同時に彼らから子育てや学校、子どもの将来について相談されることも多い。答えが出ない問題だが、気持ちを汲んで一緒に考える。マキシムは日本の学校に行きたいの、と言いながら親の考えで現在はクロアチアに住みイタリア語の学校に通っている。言葉も分からない生活に苦戦する毎日。7 歳の彼なりに困った時に、「アヤさんがいれ

ばそれでいい」と言う。子どもにとって、いつも見守られている、困った時に親以外にも頼れる人がいる、そう思ってもらえることはナニーの仕事冥利につきると感じる。と同時に、信頼に値する仕事ができるよう身が引き締まる思いである。子どもの気持ちに添い、その家庭の保育方針に沿う。そしてその場所ごとの文化に合わせて試行錯誤を繰り返す。子育ては世界共通の中に、新しい驚きと発見にあふれている。楽しみと苦心と珍道中が私のナニーの仕事には詰まっている気がする。